

白老町

9325 竹内 千尋

1. 白老町の歴史

1.1 地名の由来

白老町の地名の由来は、アイヌ語の「シラウオイ」が転化したものである。アイヌ語の「シラウオイ」とは、「アブの多い処」という意味である。(シラウ→虻・オウ多い・イ→処)

1.2 歷史

1856(安政 3)年に仙台藩が白老に仙台陣屋を設置し、塩釜神社を建立。この年が、白老の開基の年となる。1919(大正 8)年の 2 級町村制施行によって、白老・敷生・社台の 3 村が合併し、白老村となる(この年の世帯数 988、人口 4,906)。1954(昭和 29)年の町制施行によって、白老町と改名。1968(昭和 43)年に全道総合畜産共進会で、白老の和牛くらふみ号が最高位賞を獲得し、和牛生産全道一の名をあげ、白老牛で有名な町になる。また、白老町社台地区は、半世紀余りの歴史を持つサラブレッドの産地としても有名で、優勝馬を数多く世に送り出している。

2. 地理・気候

2.1 地理

白老町は胆振支庁中部に位置し、東は苫小牧市、西は登別市、北は伊達市・千歳市(千歳市は石狩支庁に属する)とそれぞれ隣接している。面積は425.75km²に及ぶ。

東経は東 141°25'38" 西 141°05'03"
北緯は南 42°26'56" 北 42°42'59" である。海岸線には、国道 36 号線・JR 室蘭線・道央自動車道が走っている。市街地も海岸線に沿

って形成されており、海岸線を離れたところはほぼ原生林のままなので、奥行きがない。
虎杖浜、竹浦、北吉原、萩野、石山、白老、社台、森野の主に8地区がある。

山は、ホロホロ山、オロフレ山、白老岳、加車山、多峰古峰山、北山、窟太郎山、瓦斯山がある。河川は、敷生川、白老川、社台川、別々川、アヨロ川、ボンアヨロ川があり、湖沼は倶多楽湖、ポロト湖、滝はインクラ滝(日本の滝百選)、白老滝、社台滝がある。

図 1.白老町の位置



出典：白老町 HP

2.2 気候

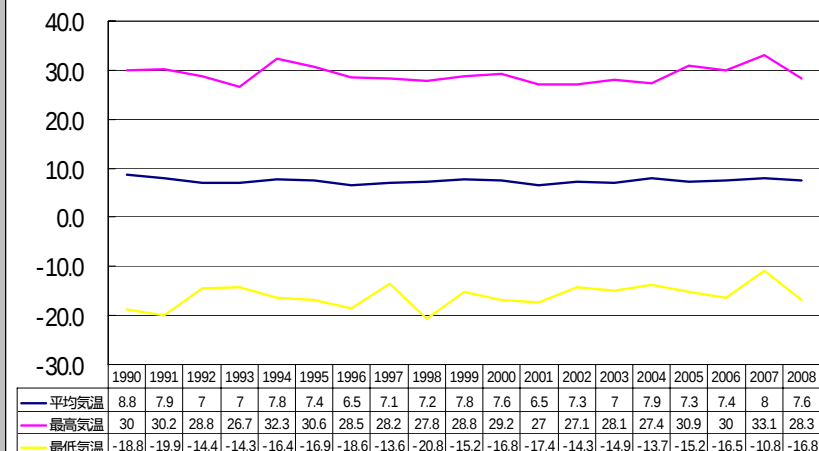
白老町は、グラフ 1 からわかるように、1990 年から 2008 年にかけては、気温の大きな変動はないが、昭和 6 年の最高気温 32.3 を 2007 年に更新した。

また、グラフ 2 から白老町は積雪量が比較的少ない町であることがわかる。過去の記録として、最高気温は、2007 年の 33.1 。最低気温は、1998 年の - 20.8 。最大風速は、平成 17 年の 20m/s。最深積雪量は、1985 年の 70 cm。一日降水量は、1987 年の 442mm である。

3. 白老町の人口・世帯数の推移

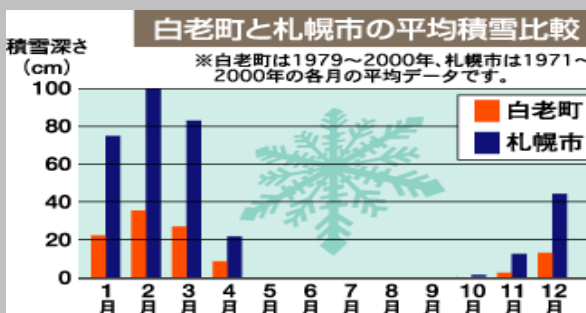
グラフ 2 から、人口は平成 2 年に行われた第 15 回国勢調査から現在にかけて減少の傾向にある。これは、少子高齢化の影響であると考えられる。しかし、世帯数は増加傾向にあることがグラフ 3 から読み取ることができる。これは、世帯の核家族化が背景にあると考えられる。

グラフ1 白老町の年間気温の推移



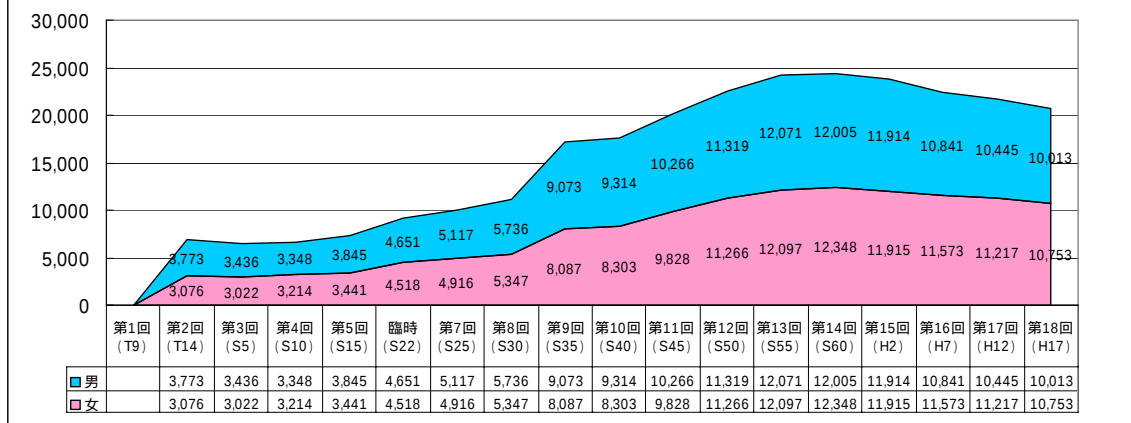
出典：室蘭地方気象台 HP

グラフ 2 白老町と札幌市の平均積雪比較

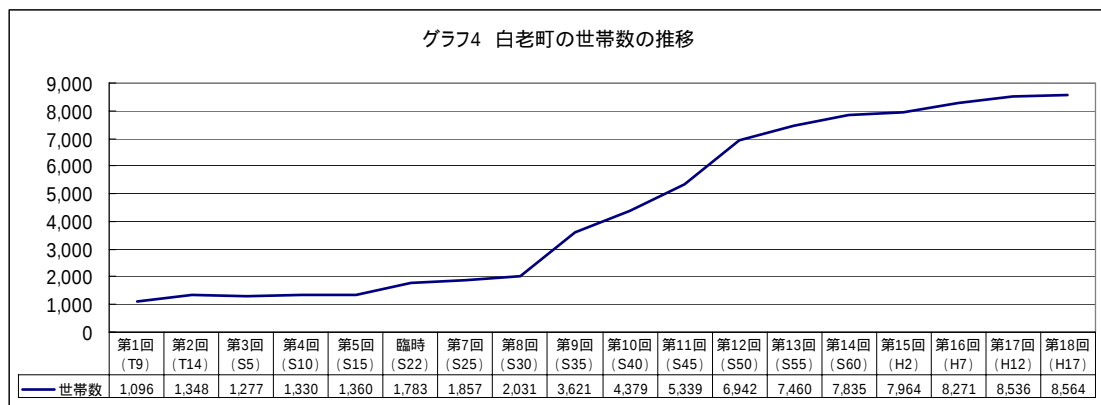


出典：白老町 HP

グラフ3 白老町の人口の推移



出典：白老町 HP



出典：白老町 HP

4. 産業

4.1 白老町の産業

～第一次産業～

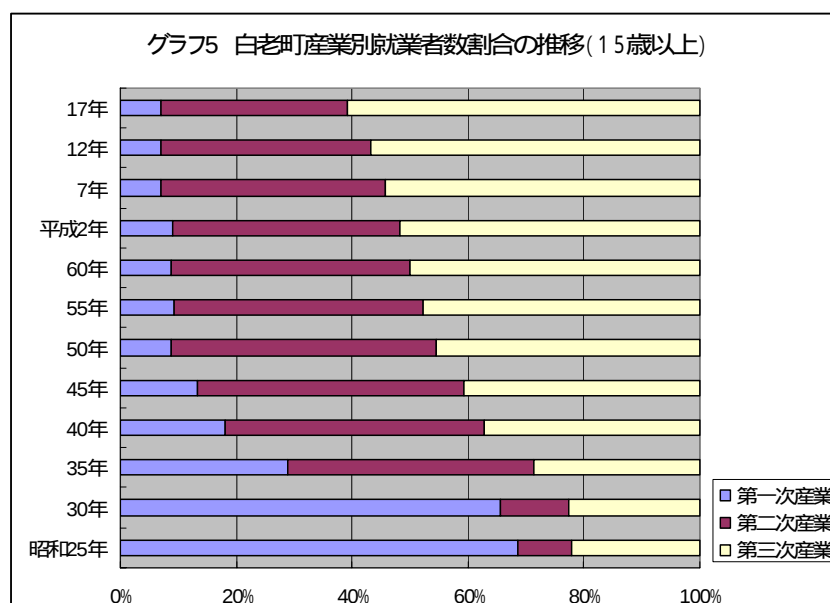
農業はほとんど行われていない。漁業はそれほど盛んではないが、漁協は二つある。林業は国営の営林署はあるがそれ以上のものはない。しかし、町の面積の 9 割は原生林。畜産では社台地区に白老ファームという牧場があり、競走馬が放牧されている。他地区では肉牛が飼われている。これが白老牛である。

～第二次産業～

竹浦・虎杖浜地区に水産加工工場がいくつかある。北吉原地区に日本製紙白老工場がある。この町では最大の工場である。また、石山地区には播磨化成の工場があるが小規模である。平成元年に石山工業団地を整備し工場を誘致している。そして、この地区では昭和 56 年から白老港が建設されており、平成 19 年の貨物取扱量は約 106t と北海道の地方港湾では最大となっている。

～第三次産業～

白老地区にポロトコタンとアイヌ民族博物館、白老仙台陣屋跡(国の史跡)、仙台藩白老元陣屋博物館などがある。ポロトコタンはポロト湖畔温泉とあわせて観光施設となっている。さらに、イオル構想に伴って、町内に「中核イオル」が置かれることが決定しているのでアイヌ文化の伝承という面の他に観光面での期待度も高い。ま



出典：白老町 HP(国勢調査)

た、虎杖浜地区に虎杖浜温泉があり、国道 36 号線沿いには旅館・ホテルが存在している。町内には他にも広範囲に渡って温泉が湧出している。

かつては、馬産が盛んであったため昭和 25 年、昭和 30 年辺りの第一次産業の就業者数が多くなっており、馬産の衰退とともに第一次産業の就業者数が減少したと考えられる。

4.2 白老町の農業

戦前は、馬産が盛んであったが、需要減退により衰退した。昭和 29 年の 10 月に島根県から道内で初めて肉牛(黒毛和種)44 頭を導入。昭和 33 年度までに約 8,222 万円を投入し 253 頭を購入(年平均約 2,000 万円)同時の町の財政規模は約 8,000 万円。これは、道有牝牛貸付制度「子返し法」を利用したものである。(「子返し法」とは、貸付を受けた牛は貸付期間 5 年以内に最初に生産された雌牛を町へ納入すると子返しした貸付牛は無償で借受人に払い下げられるというものである。)島根牛を導入した理由には、体型資質が良好である点、性質温情でよく人に慣れる点、飼しやすい点、早熟早肥である点などが挙げられる。

当時の農家戸数は昭和 30 年の時点で 975 戸(和牛生産農家 55 戸)であるのに対し、平成 8 年の時点では 93 戸(和牛生産農家 63 戸)である。41 年の間に農業戸数は大幅に減少しているのに対し、和牛生産農家の戸数は若干の増加がうかがえる。ところが、平成 20 年の時点での和牛生産農家の戸数は 47 戸まで減少している。この 47 戸での家畜飼養頭数は 7,412 頭(うち黒毛和種 5,012 頭)である。

図 2 白老牛



出典：白老町 HP

図 3 白老牛



出典：白老町 HP

表 1 家畜飼養頭羽数										
年次	乳牛		肉用牛		馬		豚		鶏	
	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数	戸数	頭数
平成 14 年	1	46	56	5,465	24	333	1	7,216	7	1,011,174
平成 15 年	1	47	50	6,119	25	339	1	7,282	7	976,658
平成 16 年	2	40	48	5,926	24	295	1	7,383	12	939,844
平成 17 年	4	424	47	5,886	25	299	1	7,206	16	1,003,951
平成 18 年	1	24	47	6,639	26	281	1	7,415	17	1,081,122
平成 19 年	0	0	47	6,993	22	295	1	7,752	11	1,075,377
平成 20 年	0	0	47	7,412	20	335	1	7,373	12	1,126,085

出典：白老町 HP

白老で飼養される和牛は、昭和 50 年 10 月（社）全国和牛登録協会により「白老牛」の命名を受けている。

表 1 から、白老町では現在乳牛は全く飼養されておらず、肉用牛の飼養が増加傾向にあることがわかる。しかし、肉用牛農家の戸数は減少・停滞している。馬・豚・鶏の飼養には目立った変化はない。このことから、白老町は白老牛の生産に力を注いでいることがうかがえる。

表2 農業産出額(単位:千万)																			
年次	農業産出額	畜産							耕種										加工農産物
		畜産計	肉用牛	乳用牛	生乳	豚	鶏	その他	耕種計	米	麦類	穀類・豆類	いも類	野菜	果実	花き	工業農産物	種苗・苗木その他	
平成14年	435	431	47	*	*	*	224	124	4	—	—	0	0	1	—	3	—	—	—
平成15年	373	367	42	*	*	*	173	113	6	—	—	0	0	1	—	6	—	0	—
平成16年	402	397	54	*	*	*	186	120	5	—	—	0	0	1	—	4	—	—	—
平成17年	443	439	58	*	*	*	210	134	4	—	—	0	0	0	—	3	—	—	—
平成18年	467	462	61	*	—	*	224	138	6	—	—	—	—	0	—	5	—	—	—
平成19年																			

「*」は飼養者が少数のため秘密保護上公表しないもの。

出典：白老町 HP

畜産の「その他」は牛・豚・鶏以外の畜産(馬など)を指す。

平成 19 年より、市町村別の集計が行われなくなったため、データの追加はなし。

表2からわかるように、白老町における耕種の農業はほとんど行われていない。これは、農業基盤となる土壌は有珠系粒火山灰の厚層に覆われ、また、農耕期に海霧が発生することから、耕種農業でみると低位生産地帯であるため、農業の基幹は、牛、馬、鶏による畜産が主体となっているためである。

農業粗生産額は、養鶏が民間の鶏卵工場があるため総額の半分近くを占め、肉用牛やその他馬等を含め畜産だけで大半を占めている。

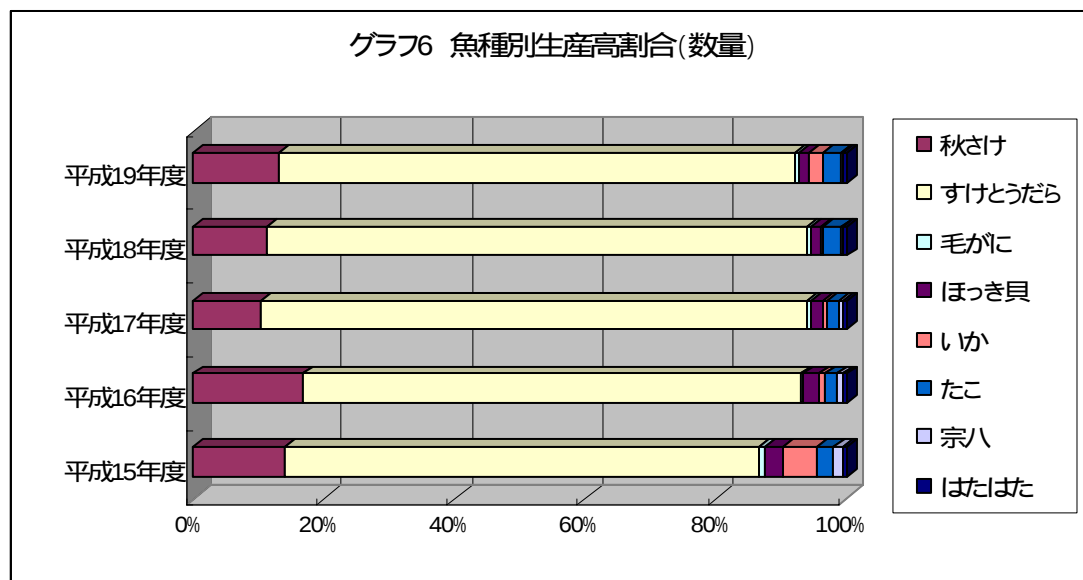
4.3 白老町の漁業

表3からスケトウダラ刺し網漁業と秋さけ定置網漁業への依存度が非常に大きいことがわかる。また、水揚げされたスケトウダラの7割は地元加工業者に、3割はその他の道内加工業者に卸され、たらこ、すり身、乾物に加工され、たらこは、「虎杖浜たらこ」として7割が東京市場に運ばれている。この他では、かれい刺し網漁業、ほっき貝桁漁業、えび籠漁業、かに籠漁業等が行われ、四季を通じて豊かな水産物が水揚げされており、平成 15 年度の総水揚げは、漁獲高で約 1 万トン、漁獲金額で約 18 億 3 千万円となっている。

また、内水面漁業では、倶多楽湖からの湧水を利用してニジマスの養殖が行われ、ホテル等に卸すとともに、湖水を利用したヒメマス、ワカサギの遊漁、温泉水を利用した養殖事業が行われている。

表3 魚種別生産高(単位:トン・千円)										
区分	平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度		平成19年度	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
総数	10,183	1,814,091	13,995	2,256,959	15,358	2,503,223	15,487	2,979,546	17,237	3,263,239
秋さけ	1,301	163,899	2,159	397,952	1,526	400,645	1,606	552,882	2,129	729,817
すけとうだら	6,665	675,605	9,916	1,048,855	12,180	1,321,826	11,985	1,527,385	12,715	1,490,646
毛がに	86	186,169	71	154,766	68	180,698	75	159,233	95	184,994
ほっき貝	275	130,518	294	138,104	294	133,726	244	114,965	259	106,346
いか	462	81,099	136	27,238	79	13,091	38	8,458	337	67,823
たこ	247	95,301	237	92,248	293	133,046	418	188,013	458	238,796
宗八	126	37,394	127	31,123	88	25,644	41	16,567	67	22,243
はたはた	48	27,785	51	23,121	56	33,952	56	31,416	63	37,435
その他	973	416,821	1,004	343,552	774	260,595	1,024	380,627	1,114	385,139

出典：白老町 HP



出典：白老町 HP

5. 観光

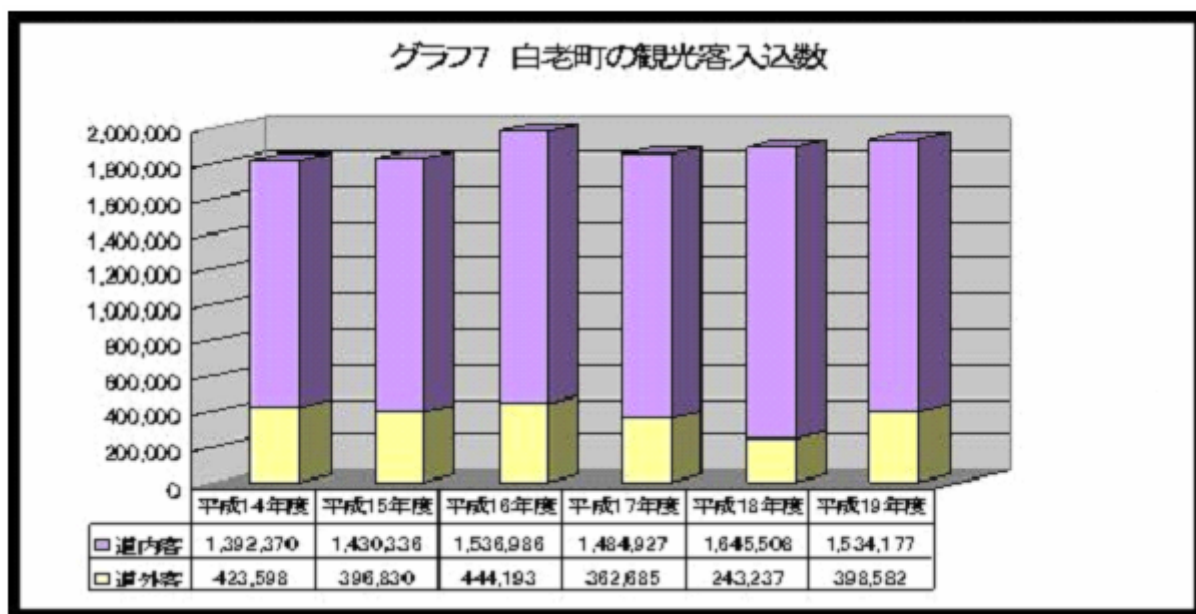
5.1 白老町の観光客入込数

グラフ7より、白老町の観光客入込数には大きな変化はみられない。そして、道外客よりも道内客の方が明らかに多いことがわか

表4 白老町の観光客入込状況(単位:人)					
年度	観光客入込数			左の区分	
	総数	道外客	道内客	日帰り及び通過客	観光客宿泊者数
平成14年度	1,815,968	423,598	1,392,370	1,685,258	130,710
平成15年度	1,827,166	396,830	1,430,336	1,670,626	156,540
平成16年度	1,981,179	444,193	1,536,986	1,819,765	161,414
平成17年度	1,847,312	362,685	1,484,927	1,699,154	148,158
平成18年度	1,888,745	243,237	1,645,508	1,749,266	139,479
平成19年度	1,932,759	398,582	1,534,177	1,805,815	126,944

出典：白老町 HP

る。また、表 4 から、観光客の宿泊者数よりも日帰り及び通過客がはるかに多いことから、白老町はメインの観光スポットというよりも、他の観光地のおまけであるのかもしれないという推測がたつ。



出典：白老町 HP

5.2 観光スポット

～財団法人 アイヌ民族博物館(ポロトコタン)～

図 4 ポロトコタンの風景



出典：白老観光協会 HP

ポロトコタンとはアイヌ語で「大きい湖の村」という意味である。その名のとおりポロト湖沿いにある日本最大のアイヌ民族博物館を有している。アイヌ民族の文化を紹介する施設として知られており、アイヌ民族の楽器「ムックリ」の演奏や、アイヌ民族を代表する古式舞踏「イオマンテリムセ」が常時公開されている。特に古式舞踏に関しては国の重要無形民俗文化財に指定されており、世界各地の先住民族との交流拠点として有名で、北海道を代表する施設となっている。

～ 仙台藩陣屋跡～

安政 3 年、当時幕府は開国時におけるロシア勢力の南下に備え、仙台藩や奥羽諸藩に蝦夷地の警備を命じた。その守備範囲は白老から国後・択捉島までの広大な範囲に及ぶ。この仙台藩陣屋は各地に置かれた出張陣屋の一つであり、その警備の中核として機能していた。

図 5 仙台藩陣屋跡



出典：白老観光協会 HP

～ 具多楽湖～

環境省の 2001 年度公共用水域水質測定結果で水質の湖沼部門で全国一位。支笏洞爺国立公園特別区域にある周囲約 8km の円いカルデラ湖。摩周湖について透明度の高い美しい湖。チップ釣りの聖地として有名。

図 6 具多楽湖



出典：白老観光協会 HP

白老町には他にも、日本の滝百選に選ばれた「インクラの滝」やそれと並ぶ町内の三名所の「白老滝」、「社台滝」などがある。また、ポロト湖周辺に広がる「ポロト自然休養林」は森林浴に人気のスポットである。その他にもたくさんの温泉や牧場などの観光スポットがある。

5.3 白老町のイベント

～ 白老牛肉祭り～

毎年 6 月上旬に白老インター前広場で開催されるこのまつりでは、白老町の名産である白老牛の焼肉販売や、牧草投げ大会、「四季彩街道」胆振・後志交流フェアなどが行われている。今年行われた第 21 回白老牛まつりでは、31,000 人が来場し大いに賑わった。

～ 元気まちしらおい港まつり～

白老町のほぼ中央に位置する白老港で開催される祭り。「食」と「遊び」をテーマにしており、「毛がに」や「ほっき貝」などの海産物だけでなく「白老牛」なども美味しく、そして安く食べることのできる企画がある。さらに、「ビーチバレーボール大会」や「花火大会」、「よさこい in しらおい」などのイベントもあり、まさにテーマに沿った祭りである。

図 7 元気まちしらおい港まつりの様子



出典：白老町 HP

この他にも、8 月には「クッタラ湖燈籠流し」や「しらおいチェブ祭」、9 月には「白老八幡神社例大祭」などのイベントがある。

以上のことから、白老町は自然が豊かな町であることや、海産物や白老牛など白老町「食」の良さがあることがわかった。また、アイヌ文化とも密接な関係を持っており、実に北海道らしい特色を持っているように感じた。

参考 HP

- ・ 白老町 HP (<http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/top5.htm>)
- ・ 白老町観光協会 HP (<http://www.shiraoi.net/>)